

# どうわこども園 令和4年度 施設としての自己評価

## (1) 保育の基本理念と実践

### 3年目を迎えたコロナ禍での保育

令和4年度も、1年間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。感染の波が高まった時期には、本園の園児や職員の間にも複数の感染が確認され、以下のとおり大分市から登園自粛要請やクラス閉鎖の措置が講じられることになった。

令和4年5月21日～5月24日 きく組 登園自粛要請

令和4年8月16日～8月17日 うめ組 クラス閉鎖

令和4年9月13日～9月14日 ふじ組 登園自粛要請

令和4年12月27日～12月28日 ゆり組 登園自粛要請

その一方で、コロナ禍の終息が見え始めた一年でもあり、3月の卒園式は、来場制限を撤廃して開催することができた。

## (2) 職員処遇、人事等

### 「事務の日」の導入

クラス担任の保育者たちが、保育を離れて事務作業に専念できる時間を確保するため、「事務の日」を導入した。残業や持ち帰り仕事を減らすうえで一定の効果があったようである。

### 令和4年度の採用・退職

#### [採用]

羽賀 白（非常勤子育て支援員）2022年7月12日 採用

戸山 菜々子（正規調理員）2022年11月1日 採用 ※2023年1月1日～正規

長野 美樹（正規調理員）2023年1月1日 採用

#### [退職] ※いずれも2023年3月31日退職

大石 有里子（保育教諭）

若狭 美紀（調理員・栄養士）

佐藤 洋子（非常勤保育士）

安元 優子（非常勤保育教諭）

齊木 めぐみ（非常勤保育教諭）

## (3) 家庭及び地域社会との連携や子育て支援

### 使用済みオムツ持ち帰り制度の廃止

使用済みオムツを園児ごとに分別し、保護者に持ち帰らせることは、保育施設において長年当然視されてきた慣習であった。保護者と職員双方の負担を減らすため、どうわこども園では 2022 年 12 月よりこれを廃止し、園で一括処分することとした。(その後まもなく、行政主導で同様の動きが起こり、使用済みオムツは園で処分することが時代の流れとなってきたようである。)

### 保護者アンケート

今年度も、保護者アンケートを 1 回実施した。回答率は高く、また Google Forms を利用したことで、集計も容易であった。

### 図書貸し出し

今年度も、令和 2 年度より本格化した図書貸し出しを継続した。今年度、園の蔵書数は 1 年間で 35 冊増加した。

### 園庭開放

どうわこども園では令和 4 年度も、月 2 回程度、園庭開放を実施した。だが新型コロナウイルスの流行もあり、また広報が不十分だったことなども災いして、利用は全般に低調であった。

### 一時預かり

在園児以外の子どもを対象とする一時預かり(一般型)は、人手不足のため令和 4 年度は休止した(令和 5 年度から再開)。1 号認定の在園児を教育時間外に預かる一時預かり(幼稚園型 I)についてはこれまでどおり継続し、年間を通じて多少の利用があった。

### 小学校との連携

コロナ禍で小学校との連携が難しくなっていたが、今年度は、1 年生と年長児が相互に訪問して交流したほか、教職員同士の意見交換会を開催することもでき、有意義な取り組みとなった。

## (4) 保育の実施運営体制、安全管理など

### オンライン研修と対面研修の併用

コロナ禍で一気にオンライン研修が普及したが、令和 4 年度は、対面型の研修も徐々に復活する傾向を見せた。常勤職員のほぼ全員が、さまざまな外部研修を受講した(計 57 回)。

## 労災

令和4年8月にコロナ感染が広がった際には、職場感染した非常勤職員4名が労災認定され、休業補償給付を受けることになった。それ以外には、令和4年6月に調理員1名が指を、令和5年3月に子育て支援員1名がひざを負傷し、それぞれ労災として処理された。